



廿日市市教委だより

令和元年
11月15日
第7号

～ 子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち ～



秋も深まり、研究に没頭するには良い季節となりました。

みなさんの学校でも「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に日々取り組んでいただいているところだと思います。

広島県立廿日市特別支援学校でも「児童生徒の意欲、主体性を育てる授業づくり～廿特版『学びの変革』アクション・プランに基づく生活単元学習の授業改善～」を研究テーマとして、授業改善と教育課程の改善に取り組まれています。

来る、12月14日(土)に広島県立廿日市特別支援学校で公開授業研究会が開催されます。「生活単元学習」の公開授業、ポスター発表、竹野政彦 広島県立教育センター特別支援教育・教育相談部長の講演等が予定されており、今までと違った視点から、「学びの変革」や「主体的・対話的で深い学び」について考えたり、大切な本質に立ち返ったりできる、先生方にとって貴重な機会となるのではないかと思います。

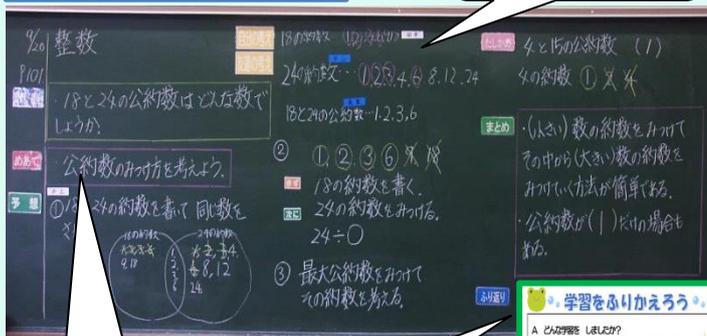
案内・申込について詳しくは、[こちら](#)をごらんください。

「主体的・対話的で、深い学び」を支える板書の工夫！

授業における板書の役割は、視覚に訴えて考えさせたり理解させたりすることや、授業中の児童生徒の思考を整理したり学び合いを助けたりする働きがあります。市内の学校においても、校内研修などを通して様々な板書の工夫が見られます。この度は、プログレス研修(教職員夏季研修)でも実践発表していただいた地御前小学校の板書の取組について紹介します。

児童の考えを児童自身が板書して友だちに伝える。(名札の活用)

<算数> 6年「整数」



「問題」「めあて」「まとめ」は、チョークの色を決めて四角囲みをする。

授業の「ふり返し」は、視点を決めてふり返らせる。

「算数」の板書を学校全体で統一することで、授業展開もそろい、他教科(「理科」「社会」等)での分かりやすい板書にもつながっている。

地御前小学校の板書のポイント

◆授業の流れが分かる構造的な板書

- ・「めあて」に対する「まとめ」
- ・授業展開の構造化
- ・児童の考えを取り入れた板書

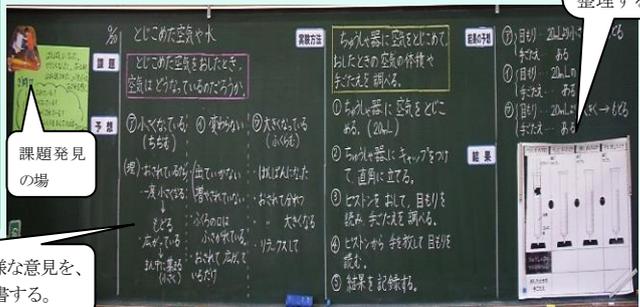
◆見やすく、分かりやすい板書

- ・文字の大きさ
- ・図、表の活用
- ・「めあて」「まとめ」を料理みして視覚化

◆ノート指導と関連させた板書

実験結果は、図表を取り入れて整理する。

<理科> 4年「とじこめた空気や水」



課題発見の場

「予想」は、できるだけ多様な意見を、可能な限り児童の言葉で板書する。



▲「おいしいよ！」(10/16の廿日市小学校)

よくかんで 笑顔で食べよう ひろしま給食



(令和元年度「ひろしま給食100万食プロジェクト」最優秀キャッチコピー)

健康につながる食について 学びながら食べる



▲廿日市市統一メニュー

県民みんなで、広島ならではの給食メニューを食べる「ひろしま給食100万食プロジェクト」。今年度は「食と健康」をテーマに、噛みごたえのある食材が取り入れられました。

廿日市市では、10月13日～19日の「ひろしま食育ウィーク」に、市内の児童生徒約1万人に廿日市市統一メニューを提供しました。メニューは、ごぼうや豚肉を入れたみそ味のきんぴらの「噛みってる! GoGo炒め」、ごはん、牛乳、ちぬのから揚げ、廿日市市産のあさり・小松菜・生しいたけを入れたみそ味の「お宝汁」、みかんの6品で、広島県産、地元廿日市市産の食材をたっぷり使った給食でした。

◎特別支援教育の視点に基づいた学習指導 ～活動はシンプルに！～

授業中、一生懸命ノートを書いている子ども達をよく見ていると、その中に書く作業に没頭して、実は先生の話聞いていない子がいることに気がつきます。

“同時に複数の作業が苦手”で、書くことだけに必死になり、聞いたり考えたりすることに至れない子ども達はどのクラスにもいます。

それを意識した授業づくりとして、「聞く」「話す」「見る」「書く」「考える」の場面を明確に分けることが効果的です。

「一指示一動作」にすることで、子ども達は、今何をすべき時なのかということが明確になり、学びやすくなります。

また、右のようなカードを使って、口頭だけでなく、視覚的にも分かりやすく指示するといいですね。



スポットライト!

～この人に注目～

◆「ふるさと学習」での学習サポートや「ふるさと学習発表会」における発表指導をしてくださっているキャリア教育デザイナーの大野圭司さんにお話を伺いました。

－「キャリア教育デザイナー」とはどのようなお仕事？

◎学校の先生と民間（地域）の融合を目指す学校づくりの支援をしています。小・中学校では総合的な学習の時間における探究活動、大学では起業家講座等を行っています。

－この仕事を始めたきっかけは？

◎母校が廃校になったとき、「なぜ阻止できなかったのだろう。」という思いから持続可能なふるさとづくりをしたいと考えようになりました。



キャリア教育デザイナー
大野 圭司 さん

－どのような思いをもって仕事をされていますか？

◎子ども達がワクワクするような授業を目指しています。子ども達の学びのスイッチがONになるようにしたいと思っています。

－先生方や子ども達に伝えたいことは？

◎先生方には「もっと地域や民間、ICTに頼ろう。」と伝えたいです。頼れるところは頼って、いい授業をしてほしいです。子ども達には「失敗を楽しめる人間になろう！」と伝えたいです。未来はどうか分からないけれど、「ダメだ」ではなく「面白い宿題だ」と思っような社会であっても乗り越えてほしいです。

－これから目指していることは？

◎スクールラボをつくりたいです。廃校を活用して、修学旅行を通じた探究活動を行いたいです。

〇〇を通して「自己有用感」を高める

言うまでもなく、「自己有用感」とは、他者の役に立った、他者に喜んでもらえた等、他者の存在なくしては得られない満足感のことです。他者からの評価やまなざしを強く感じた上でなされるという点がポイントです。

あらゆる教育活動を通して、「どうすれば、子どもたちの自己有用感を高めることができるだろうか」という視点で取組の工夫・改善をしていくことが大切です。一例を紹介します。

つながれ！広がり！「宝の山」

「行事を通して自己有用感を育てる」（阿品台東小の実践）

- ◎まず、行事のスローガンを学級会で話し合って決める。
→司会グループや学級会の進め方等の確認（存在感）
- ◎代表委員会ですべてのスローガンと目指す姿を決定。玄関に掲示。全体発表する場を設定。学年の目標も発表。みんなで拍手しエールを送る。（承認・貢献・存在感）
- ◎クラスで、学年目標や目指す姿をもとに自分の目標を決定し、カードに書いて掲示。クラスの中で発表する場を設定し、お互いエールを送り合う。練習期間中のお互いのがんばりを認め、カードに記入し、掲示。（存在感・承認）
- ◎玄関前に掲示したスローガン・学年目標の周りに先生が子どもを励ますメッセージや子ども同士のメッセージを日々掲示。（承認・存在感・貢献）

◎「行事を通して自己有用感を育てる」という教職員の共通認識が重要です。

◎その共通認識のもと、教職員が朝や休憩時間等、練習を重ねる応援団や体育委員会、児童会、生徒会の子どもたちに「がんばっているね！」「ありがとう！」というメッセージを学校全体ですできるだけ届けることが大切です。

廿深!!『学びの変革』⑥

10・11月は、各校において校内研修や公開研究会が盛んに行われる時期です。

今回は、10月17日（木）に実施された原小学校の校内研修会を紹介します。

学年：第4学年

授業者：中尾 綾夏 先生

教科・単元名：国語科「くらしの中にある『和』と『洋』を調べよう～くらしの中の和と洋～」

本時の目標：文章中の接続表現や指示語に着目し、正しい文章の順に並べることができる。

＜主体的な学びを実現する授業づくり＞

【ユニバーサルデザインの視点に基づく学習指導】

◎児童同士の発言がにつながるような問いかけ

「〇〇君は～と言ったけど、〇〇さんはどう？」

「～ってどういうこと？」

→児童生徒の言語活動の充実。

→すべての児童の参加を促進。

教師が
話し過ぎない!

【研究協議の進め方】

◎事前協議の充実

深い学びを実現していく児童の姿を具体的にイメージしながら、指導案検討をしたり授業で使用する資料・教材について協議したりして授業づくりをしている。

◎ICTを活用した協議

授業での児童の様子を撮影した画像を電子黒板に映して、児童の具体的な姿を取り上げながら協議をしている。

このように、目指す児童の姿を具体的にイメージし、全教職員が共通認識のもと取り組むことで、「主体的な学び」の実現につながっていきます。

各校での校内研修を、先生方にとって「やってよかった！」と思える充実したものにしていきましょう！